

山村 尚

通告に従い、三つの一般質問を行います。一つ目は、地区間交流を目指した龍ぼん祭について、二つ目は、市ホームページの一部公開情報について、三つ目は、佐貫駅前のムクドリ対策についてです。

まず、地区間交流を目指した龍ぼん祭についてです。

現在、地域交流活性化事業が令和元年の事業計画にあるように、地域コミュニティが求められていく中、龍ヶ崎市街地域、佐貫市街地域の市民の方から、「市街地域をまたがった連携が今の龍ヶ崎市には必要なのではないか」、「確かにその取り組みは必要だ」との意見がありました。

また、過去の一般質問である議員の発言に、昔からの龍ヶ崎在住の方と新しく市内にこられた方の交流が少ないと聞いていますという内容がありました。一方、市内 13 地区のコミュニティセンター単位ではコミュニティセンターまつりが行われ、松葉地区のニュータウン夏祭り、八原地区がたつのこやまで行っている夏祭りは、市内全域から参加者が多く集まり、地区のイベントが活発に行われております。

現在、さらなる地区、市街地域を超えた交流の必要性を多くの方が感じています。

先日、文化会館で文化推進事業の一つでもある龍ぼん祭が開催されました。市内で開催されるイベントでその運営組織、指定管理者と言いますが、市の指定管理者が行う一部事業で後援を行っているイベントには、龍ぼん祭、八坂祇園祭の中日に行われる R Y U とびあ音頭パレードがあります。

今回は特に参加の自由度が高い龍ぼん祭について触れてみます。

このお祭りの開催はもう 11 回目、11 年目となりました。市内全体を巻き込んだ大きなイベントで市民祭りとして実施されており、素晴らしい取り組みだと感じます。このイベントを活用し、地区、市外地域間の交流をさらに深められないか。そこで、今回の一般質問に上げさせていただきました。

まず、最初の質問です。

11 年前と大分昔の話になってしまいますが、そもそもこの龍ぼん祭の計画では実施に至っての目標、目的はどのようなものだったのでしょうか。実施するための運営組織体制はどのようなもので予算はどのくらいだったのでしょうか。

松尾健治教育部長

龍ぼん祭は文化会館の指定管理者であります公益財団法人龍ヶ崎市まちづくり・文化財団の自主事業の一つとして、市の文化協会や音楽協会、レクリエーション協会などの団体と運営委員会を組織し、実施している事業であります。市民が自由に参加できる場として伝統的な文化である盆踊りの開催を通して、市民相互の連帯意識や郷土愛を高めようとするものと伺っております。

そもそもの趣旨といたしましては、文化会館が様々な年代の市民が集える場となるよう

にしようという趣旨で始まった経緯があるということでもあります。開催に必要な予算ではありますが、文化会館の指定管理料の中で執行されており、やぐらの設置や駐車場の警備、発電機、灯光器のレンタル料、保険加入料等の費用として毎年度約 89 万円余りが支出されていると報告を受けているところであります。

山村尚

しっかりした組織で運営されていたということがわかりました。
そして、費用対効果について、次に行く質問にて感想を述べさせていただきます。
その計画のもと実施された 11 回目の龍ぼん祭、今年は 8 月 18 日に開催されましたが、一般の方の参加者数はどのくらいだったのでしょうか。また、11 年間で参加人数の推移はどのように変わっていったのでしょうか。

それと、一般の参加者がどこからいらした方なのか、市外か市内か、市内である場合、龍ヶ崎、佐貫、北竜台、龍ヶ岡、いずれの市街地域からいらしたのか、おわかりになる範囲でお聞かせください。

松尾健治教育部長

龍ぼん祭は平成 21 年度に初めて開催され、先日行われました令和元年度の龍ぼん祭で 11 回目を数えております。

はじめに、参加者数であります。
主催者によりますと当初は 1,000 人程度の規模だったということではありますが、近年は市民の皆様に広く知られるようになり、昨年度は約 3,200 人、そして今年度は約 3,500 人の参加者があったと伺っております。屋外の事業でありますので天候に左右されますが、総じて増加傾向にあると思っております。

次に、祭りに参加する市民の居住地域であります。
混雑する中でありますのでアンケート調査などを実施することもできないということでもあります。しかしながら、開放している歴史民俗資料館や市民活動センター、さらには愛宕中学校下の駐車場の状況などを見ますと全て満車状態になっているというようなことから、市内全域から参加があるのではないかと思っております。

山村尚

単純計算でも毎年約 250 人の増加傾向、これにちょっと驚きました。いかにしっかりした計画のもと運営されているかがわかります。

龍ぼん祭向けの自主事業費 89 万円、これは市が間接的に負担している金額なわけですが、89 万円で 3,500 人の参加人数、金額だけの効果では当然ありませんが、1 人当たりに換算すると 228 円、約 230 円で参加した方に楽しんでもらえ、人と人とが新しくつながるきっかけの場にもなり得ます。費用対効果としてはとても大きいと感じます。来場した方のお

住まい、さすがに統計はとられていませんでしたが、これだけの増加数、市内の特定地区からの増加とは到底考えられないので、このお祭りに各地域の方が関心を寄せ、参加し、結果多くの来場者となったことが想像できます。

次の質問になりますが、龍ぼん祭の開始年を1年目として10年で来場者が2,500人の増加、来場者を増加させるために行われた取り組みについての質問ですが、一般的に行われるPR活動や警備活動、駐車場確保活動、これらを除いてさきに質問させていただいた目標、目的を達成するために取り組んだことはどのようなものがございますか。また、それを行ったことによる効果についてお聞かせください。

松尾健治教育部長

龍ぼん祭は、毎年祭りの後に運営委員会において反省会が行われていると伺っております。そうした活動の結果として、踊りの輪に参加しやすくするための方策として子ども向けの踊りをプログラムに加えたというようなことを伺っております。このような改善を順次図りながら、当初の目的のとおり幅広い世代が集う場になっていると思っております。

山村尚

これまで龍ぼん祭を盛り上げるために行われた取り組み、企画やそれを遂行した方々に敬意を表します。

現在行っている取り組みに加え、二つの運営に関する案を考えてみました。

一つ目は、龍ぼん祭開催場所を毎年変える案、これによる期待効果は実施する市街地域外の協力も得て、新たなコミュニケーションができる。開催場所が毎年変わることによって来場者にも新鮮味が与えられ、来場者の増加が期待できる。市街地域で一度参加した方は、開催場所が変わっても参加に抵抗が少なく、意欲的になることが期待できると考えています。

二つ目は、船橋市市民まつりで行われているような複数会場で同時開催を行うという案。これによる期待効果は、開催する会場間の市街地間協力を前提とすることで新たな地区間交流が期待できる。同時開催という珍しい取り組みにより、市外来場者の増加が期待できる。会場間の移動専用バスがあるとなお効果的で、複数会場への同日移動ができ、それが新しい楽しみ方として注目され、参加者増加が期待できると考えています。

参考までに船橋市役所の商工振興課に運営の体制について伺いました。商工振興課内に市民まつり実行委員会を置き、船橋市商工会議所など6団体が市民祭りの負担金を出し合い、実行委員会内に事務局を置いているとのことでした。これはあくまで案ではありますが、これについての御見解をお聞かせください。

松尾健治教育部長

龍ぼん祭につきましては、先ほども申し上げたように文化会館の指定管理者であります龍ヶ崎市まちづくり・文化財団が文化会館の管理運営事業に関する自主事業の一つとして、

関係団体と運営委員会を組織して実施している事業であります。そして、イベント会社などによる運営ではなく、実質的には文化会館職員が通常業務を行いながら準備などを行っており、当日は、運営委員会を構成する各団体からスタッフとして多くの方の参加をいただいで運営している現状でございます。

これらのことから、龍ぼん祭を文化会館駐車場以外の会場で開催することにつきまして、事業の目的や運営に携わる各団体の考えなど、協議調整が不可欠な事項があります。また、他の場所において開催を検討する前に、各地域の意向や協力体制などについても慎重に見きわめなければならないのかなと考えております。

次に、議員御指摘の船橋市の市民まつりということであります。残念ながら私、市民まつりそのものを存じ上げておりませんので、内容については不確かなことになってしまうかもしれません。また、これについて教育委員会の職員という立場でお答えしていいものかどうかということもありますけれども、考え方を述べさせていただければと思います。

船橋市であります、人口は恐らく 63 万人を超えていると思われます。非常に大都市でございます。そういった中で、市内には複数の商店街などもあるのかなと思います。そういう大きな都市、福祉の商店街がある中で 1 カ所で大きなイベントをするということにもなかなか制約があるんでないのかなと考えております。そういったことで、同時に複数の箇所で開催をして相乗効果を高めているお祭りなのかなと推察をいたします。

一方、当市の人口規模や商店街その他担い手の方々の状況を考えますと、同日に複数会場で祭り、あるいはイベントを開催するよりも、むしろ 1 カ所に集中して実施したほうがより効果が期待できるのではないかと考えております。

一方、議員のご質問の趣旨であります、先ほどもありましたように市街地間の交流、あるいは市民交流の促進ということも恐らく質問の趣旨であろうと私、考えました。確かに本市は 4 つの市街地から形成されております。そして、ニュータウン開発などによりまして他地域から多くの方が転入してきたということも本市も特徴でございます。そのため各市街地に居住する市民の皆さんの交流促進、さらには我々職員になった頃からずっと言われてきましたけれども、いわゆる新旧住民の交流促進など非常にまちづくりの重要な課題と認識されてきました。

このようなことから、本市におきましては市民の交流を促進する取り組みが実施されてきましたけれども、先ほどもお話がありましたように毎年 7 月の八坂祭礼の中日に開催されます R Y U とびあ音頭パレード、こちらにつきましては市民の祭りと位置づけられたものでありまして、事業の趣旨の一つも市民の交流促進にあります。祭礼とは異なり、居住地域等にかかわらず誰でもこのパレードに参加することができます。龍ぼん祭の場合は個人単位で参加、そして R Y U とびあ音頭の場合は団体で参加という違いはありますが、実際に職場や市民のサークル、あるいはスポーツ団体などの参加が多く、さらには複数の地区コミュニティセンターの方々の参加なども実際に見られます。今後は、より一層市民の

交流促進策としてこういったものが活用されることを期待しております。

山村尚

まさに目的としては、地区間コミュニティ、地域間コミュニティを目的として今回の質問をさせていただきました。今回、幾つかの案として私は述べさせていただいたんですけれども、案として運営費用を極力抑えるように今現在実施されているイベント、しかも実績があるイベントですね。たくさんの人数が年々増えているというイベントですね。これに工夫を加えてコミュニティの場を広げるよい策がないかということで今回考えました。今現在、龍ヶ崎市立地適正化計画、コンパクトシティ計画のもと、龍ヶ崎・佐貫、北竜台・龍ヶ岡の各市街地域では各地区のまちづくり協議会やその他地区に住んでいる方たち、自分たちの住む地域をよくしようと力強く結束して活動に取り組まれていることを私の身の回りから感じます。

一方で、自分以外の周りの地区で行っているイベント、関心はあってもそこへの地区を超えた協力関係というものが少ないと感じます。地区を超えた市内全域から参加を前提にした龍ぼん祭。龍ヶ崎市がバックアップしていて、やり方の工夫次第では地区間コミュニティを育む場として大きな大きな期待が持てます。さらに、市外から参加者を呼び込む可能性も秘めています。10年来大きく変化のない市民祭りは、市民交流、地区・市街地域間交流のきっかけの場となり、市民全体でこのお祭りを盛り上げるような取り組みが大切という市長の考えに一致すると思います。

今回、地域間交流を目指した取り組みに龍ぼん祭を活用できないかの趣旨で、地域交流活性化事業、文化推進事業と事業の枠を超えた取り組みを一般質問に入れさせていただきました。今後、他の市の取り組みも参考にして、また事業を横断的に複合し、龍ヶ崎市全体を盛り上げるような地区間コミュニティの継続的な方策検討をお願いいたします。

続いて、2番目の質問。

龍ヶ崎市ホームページの一部公開情報についてです。

平成20年12月に市のホームページがリニューアルされ、その後行われた一般質問で、あってしかるべき情報がない、この日程ぐらいホームページ上で情報発信してほしいという内容のお話がある議員からありました。直近では平成30年3月のリニューアルで現在のホームページとなっていますが、このホームページで私の関心がある福祉関係、地域コミュニティ関係の情報公開について質問させていただきます。

まず、介護サービス事業者選択時の公開情報について、次に市民活動イベントのスケジュール公開についてです。

先日、NHKスペシャル人生100年時代という番組で、介護サービスを受ける本人、またはその身内の方が自身がサービス提供事業者を選択できること、その重要性について述べていました。あるサービス付き高齢者向け住宅、サ高住と呼ばれていますが、ここでは1カ月の利用料金を一般的な額より3万円程度高く設定しているそうです。そのかわり利用

者がこれまでできなかったことを一つ一つできるように増やすことを目標にリハビリの質を向上し、生きる楽しみ、生きる意欲を引き出すよう独自の特色を打ち出し、取り組んでいるそうです。また、別なサ高住では看護師が常駐し、医療的ケアも行っていると紹介されていました。

現在、高齢者介護施設がたくさん増えている中、施設事業者は他の施設との差別化を図り特色あるサービスを提供しています。そして、利用者側でその特色を把握し、選択できることの重要性がクローズアップされています。

厚生労働省では、平成 18 年 4 月に始まった制度として介護サービス情報公表制度を紹介しています。これは介護サービスを利用しようとしている方の事業者選択を支援することが目的で、全国約 21 万カ所の介護サービス事業所の情報を都道府県がインターネット等により公表する仕組みです。そして、各都道府県及び厚生労働省が運営している介護サービス情報公表システムというウェブサイトでは、介護事業所、生活関連情報に関する検索ができ、インターネットでいつでも誰でも情報を入手することができるようになっています。この制度に関して茨城県では、介護保険の基本理念の一つである利用者による選択を保障するための制度として紹介されていました。簡単に言ってしまうと利用者が介護サービスや事業所、施設を比較検討し、適切に選ぶための情報を県が提供する仕組みです。この制度の紹介について各自治体のホームページにも掲載すべきではないか、早速他の市区町村を調べたところ、船橋市や倉敷市、板橋区、渋谷区など多くの自治体ホームページに介護サービス情報公表システムへ外部参照できる仕組みとなっていました。

一方、龍ヶ崎のホームページには、介護施設の住所、連絡先情報、その他外部参照で介護施設別の空床数、待機者数などの情報しか見当たらず……

山村尚

午前の話の続きですが、龍ヶ崎市のホームページには介護施設に関する情報、余り載っていないということで、その施設が行っているサービスの特色であったり、どのようなところに力を入れているのかというのが把握できないという状況でした。これから介護を受ける状態になってしまった方というのは、これからの長い年月自分がどのような施設にお世話になるのかということ、不安でいっぱいだと思います。

また、利用者側が介護サービス事業者の選択に失敗してしまって後悔をしているというような、後悔を残さないような迅速な情報の公開が重要と考えております。

ここで質問なんですけれども、龍ヶ崎市役所のホームページの介護施設コンテンツから介護サービス情報公表システムサイトへの閲覧はできる仕組みとなっていますでしょうか。

足立裕福祉部長

龍ヶ崎市では、市の広報紙や公式ホームページでそれを活用し、介護保険制度を含む高齢者福祉制度の情報を市民へ積極的に提供し、その周知及びサービスの利用促進に努めて

おります。それらの媒体の中で提供している情報は、大部分は当市において取りまとめたものでありますが、国の説明会資料など国のホームページ等から直接お伝えしたほうが望ましいものにつきましては、公式ホームページ内で国の関連サイトへリンク設定も行っております。今後も国、そのほかの関係機関を提供もとする情報で、介護保険サービスの利用などにおいて市民の皆様には有益なものにつきましては、その都度市の公式ホームページにおいて速やかにリンク設定を行い、それらの情報へのアクセスの充実に努め、市民の情報ニーズにお応えしてまいります。

山村 尚

現時点では情報の公開がされていないということを理解しました。複数の介護サービス事業者の基礎データや特色がわかり、特にこれからサービスを受けるに当たり施設見学や施設決定の判断材料にもなり得る情報を当市のホームページの介護福祉ページへ追加をお願いいたします。

続いて、市民活動イベントのスケジュール公開についてです。

今や全国規模で地域コミュニティが重要視されている中で、地域コミュニティに関するイベント情報を知る手段としてインターネットの配信情報というのが一つの大きな発信元になっています。

先日、龍ヶ崎市の市街地にある企業とお会いしてお話をしたとき、馴染花いっぱい運動の話題が出て、運動にぜひ参加したい、ぜひ協力したいというお話がありました。早速花いっぱい運動の会長に連絡をとり、結果、快諾されました。

現在でもたくさんの企業に当運動はお手伝いをしていただき、更に市街地を超え、また個人、民間企業の枠を超えて、助け合う、協力し合うという姿勢に私は感銘を受けました。このような機会を知るきっかけを大切にしなければと感じたのですが、馴染花いっぱい運動の実施日時がわかりませんとのことで、これに関する情報の知るすべがあるのかどうか、調べてみました。馴染花いっぱい運動が掲載されていたまち協ニュース、これは馴染まちづくり協議会が発行しており、馴染地区には全戸配布されていたんですが、ほかの地区には配布されていませんでした。私自身も馴染地区以外の協議会発行のまち協ニュースに相当するものを見たことがありません。

では、市のホームページ上に各協議会が行う何かしらのイベント情報が掲載されているのか、ホームページのイベント情報、市民活動にカレンダー形式のスケジュール欄はございました。しかし、残念ながら掲載がございませんでした。現在、龍ヶ崎市には13の協議会がございます。各協議会で行われる市民活動のイベント予定はホームページの市民活動イベントカレンダーに掲載はされないのでしょうか。また、市民活動センター、市民交流プラザのイベント予定も当該カレンダーには掲載されないものなのでしょうか。当該カレンダーの更新運用も含めて質問いたします。

齊田典祥市民生活部長

地域コミュニティ協議会や市民活動団体が自主的に行っている市民活動は、地域の課題解決をはじめ地域の発展を担う上で大変重要であり、またその活動の情報発信につきましても同様に大切であると認識しております。

現在の市公式ホームページは平成 30 年 3 月にリニューアルを行い、その際、市民活動地域情報サイト「みんなでりゅうがさき」を創設しまして、その中で市民活動や地域コミュニティなどのテーマごとに様々な活動の情報を掲載しているところでございます。

また、市民活動の拠点である市民活動センターや市民交流プラザなどではフェイスブックを開設し、独自の情報発信も行っているところでございます。山村議員ご指摘のホームページを活用した情報の提供につきましては、本年 2 月に地域コミュニティ協議会の交流を目的に開催を予定しておりました龍ヶ崎コミュニティフェスタに際しまして、より多くの参加者を募るため開催情報を掲載し、広く市民に周知を行ったところでございます。

次に、市公式ホームページにおける情報の掲載や更新につきましては、市民活動関連団体から依頼を受け、市が一括管理をしております。今後につきましては、市民活動関連団体に対し、市公式ホームページ及び広報紙りゅうほーへのイベント情報の掲載について広く呼びかけるとともに、市公式ホームページのイベントカレンダーを活用するなど、様々なツールを利用し、当市における市民活動の情報を積極的に発信してまいりたいと考えております。

山村尚

このお話をした週の週末に市民活動のイベントのページを見てみたら、コミュニティ協議会主催の祭り情報が追加されているのを確認しました。早々のご対応ありがとうございました。

まちづくり協議会発行のまち協ニュース、2 カ月先の予定が書かれていることもあるのですが、紙ベースなので紛失するおそれもあります。また、別のコミュニティエリアから相互閲覧ができないため、ぜひとも市のホームページ上の市民活動イベントカレンダーへ各協議会主催のイベント。祭りだけに限らず、ほかの地区から協力に行きたいであったり、興味があって行ってみたいと思えるようなイベント、そして市民活動センター、市民交流プラザのイベント予定を掲載いただくことを希望します。

最後の質問になります。

佐貫駅前のムクドリ対策についてです。

この題名から皆さん想像ができると思うんですが、今年の夏、お気づきになられた方も多くいらっしゃると思いますが、佐貫駅の東口にムクドリが大量発生しました。今現在もしています。佐貫駅を利用している方、近所にお住まいの方皆さん驚いています。そして、ムクドリ大量発生によりこうむった被害、まずはムクドリのふん害について。

街路樹に集まったムクドリ、駅前電線に集まったムクドリから落とされるふんが公共の場

で、しかも人の往来が市内で最も多い佐貫駅、この駅前遊歩道、駅前車道、駅前電線下にある店舗の屋根、大量にふんがまき散らかされています。直接ふんを受けてしまうこと、私はありませんでしたが、駅前という条件なのでふんを受けてしまった方はいらっしゃると思います。まき散らかされたふんにより美観が損なわれ、衛生的にもいいはずがありません。また、ふんを受けた店舗の建物が傷むというような原因にもなります。

次に、鳴き声による騒音被害についてです。

ムクドリが大量発生している夕刻に、ギャアギャア、ギョルギョルという連続した鳴き声に驚かれる方は多くいらっしゃると思います。駅からやや離れた住宅地までも夕刻まで鳴き声が聞こえているそうです。また、夜半過ぎに突然鳴き始め、朝方まで鳴き続けているというお話も伺いました。

取手市や牛久市、県外では我孫子市でも、これまで同じような被害があり、様々な対策を講じてきたと聞きました。しかし、ムクドリが鳥獣保護に関する法律の対象となる野鳥であることから、駆除を目的とした捕獲が難しいということでした。今回、馴染地区の幾つかの地域組織、佐貫駅周辺にお住まいの方、駅からやや離れた場所にお住まいの方から相談を受けました。具体的にはムクドリのふんにより美観が損なわれるというご相談、ムクドリの騒音がやかましいというご相談、もう一つは街路樹を植えている植樹升の破損のご相談でした。

鳴き声の騒音に関するご相談は2件で、うち1件のご相談された方のおたくは駅からやや離れているので、同様に騒音と感じられている方、多いと思われます。植樹升の破損は、何個かの升が街路樹の生育し過ぎにより割れていて危険であるというものでした。

そこで質問です。

はじめに、ムクドリのふん、騒音に関してです。

これらに対して、現在市で行っている対策などがありましたら教えてください。あわせて対策の進捗についてもお答えください。

官本孝一都市整備部長

議員ご指摘のとおり、現在佐貫駅東口ロータリーにおきましてムクドリによるふん害や鳴き声による騒音の問題が発生し、近隣住民や駅利用者からの苦情を受けているところでございます。

このため本市の対策といたしましては、ロータリー内歩道の街路樹であるケヤキにムクドリがとまれないようにするため枝の剪定を行い、防鳥ネットを設置する準備を進めているところでございます。あわせて、電線管理者に対して電線に鳥がとまりにくくなる機具を装着するなどの対策を依頼しており、佐貫駅前周辺のムクドリ対策を実施してまいりたいと思っているところでございます。

山村尚

事業者選定も含め対策を準備されているということ、安心しました。網やネットでの防鳥効果は自分でも調べてみましたが、施工に手間がかかるものの効果はあるということでした。私が調べたものでは姫路市で取り入れたバードプロテクターという特殊波動機器、50 メートル置きに街路樹に設置し、パルスをランダムに発生させるということで効果があったとのことでした。

ところでムクドリから落とされるふんは決してよいものではありません。どのような悪い影響が考えられるか調べてみました。ムクドリ限定でふんからうつる病気はないものの鳥インフルエンザ、オウム病、クリプトコックス病、ニューカッスル病など、細菌感染している鳥のふんから人間に感染し、健康被害を及ぼす可能性があるということでした。早急のふん対策を実施していただきたいと思います。

次に、ムクドリが集まっている駅前ロータリーの街路樹についてです。昭和 56 年の佐貫駅東特定土地区画整理事業として、佐貫駅東口の駅ロータリーに植えられた街路樹たち、既に 30 年以上が経過し、大きく成長しています。これら街路樹の生育に伴い、近隣住民の方から何かしらの困った相談など、今現在、または過去に受けられていますでしょうか。受けられている場合その相談内容はこういったものだったのでしょうか。

宮本孝一都市整備部長

佐貫駅東口ロータリー内には、敷地内の南側、東側及び北側に街路樹が植樹されております。街路樹は、樹木の成長により、植樹升の破損や伸びに起伏を生じさせるなどの影響がございます。街路樹による隣接地からの苦情等につきましては、現時点では寄せられてはおりませんが、過去においては街路樹の根が民有地に侵入したことや落ち葉による苦情が寄せられた経緯がございます。

状況といたしましては、民有地内に設置されております排水管に街路樹の根が侵入し、管を詰まらせるという事案がございました。そのときの市の対応といたしましては、排水管の中に侵入した根を除去するとともに、根が民有地に侵入しないよう官民境界付近で根切り作業を行い、さらに根の侵入を防ぐためにコンクリート製の板を設置するなどの対策をしております。

また、落ち葉による苦情につきましては、民間の建物の屋上に落ち葉が堆積し、排水溝を詰ませたという事例がございました。このときも市が直営により被害建物の屋上を清掃しております。街路樹の周辺に被害を及ぼした場合、これまで同様その都度適切に対応してまいりたいと考えております。

山村尚

落ち葉に関するご相談、駅前街路樹は落葉樹が大半ですので、定期的な清掃も含め近隣住民の方々に御迷惑がかからないよう、これからも対応をお願いいたします。

生育に伴う根の侵入、過去にあったということでした。30 年以上前に植樹された街路樹は 30 年後にどんな問題を起こすのか、想像するのは難しいと思います。しかし、想定できる問題はできる限り洗い出し、後に問題を起こさせないということが重要だと思います。現在、佐貫駅前開発事業、俗称佐貫駅東口ロータリー改修事業が計画されていますが、この計画の中でムクドリが大量に集まる原因にもなった街路樹、この街路樹の伐採または植え替え計画はございますでしょうか。街路樹があるかないかでムクドリの生息範囲が大きく変わりますので、ご答弁よろしくお願いします。

宮本孝一都市整備部長

佐貫駅東口駅前ロータリーの歩道内にございます既存の街路樹につきましては、改修工事に伴いまして全て撤去し、再植樹の計画は持っておりません。

山村尚

個人的には、30 年以上も市の玄関口で佐貫駅のシンボルとして植えられてきた木たち、なくなるのは寂しい感じがします。一方で、これから新しいまちづくりの拠点佐貫駅前が見直され、新たな一歩を踏み出すためにはやむを得ないのかなとも感じます。計画性のあつた新しい取り組みを行うこと、大いに結構です。しかし、目の前に起きている課題を一つ一つ解決していくことも重要です。

佐貫駅前開発事業により数年後に街路樹が伐採されるにしても、それまで数年間の期間がございまして。それまでに何度も起こることが予想されるムクドリ大量発生によるふん被害、騒音被害、起こる可能性が全くないわけではないムクドリのふんが原因で起きる病気の蔓延、街路樹の生育が原因で発生する排水管詰まりの被害、植樹槽の破損が原因で起こり得る関連事故、これらの対策、佐貫駅前対策事業を待たずにぜひ行っていただくことを要望いたします。